

いばらきネットモニター 薬物乱用防止・オーバードーズについてのアンケート結果

1 調査目的

薬物乱用やオーバードーズの意識調査を行い、調査結果をもとに、薬物乱用防止についてより効果的に普及啓発する方法を検討する上での参考とするために実施しました。

2 結果の概要

- ・日本国内における最近の薬物乱用の状況について、深刻な状況であると感じる方の割合が78.5%であった。
- ・大麻に関する認知度について、国内で所持・使用が違法であると認識している回答者が96.3%と非常に高い割合を示した一方で、大麻事犯検挙者に占める若年層の割合が増加していると認識を持つ回答者は44.4%で半数に満たなかった。
- ・オーバードーズについて「知っていることはない」(=全く知らない)と回答した方は10.0%であり、大部分の方に認知されていた。一方で、「オーバードーズは、つらい気持ちや孤独感を解消する目的で行われることが多い」と認識している方は46.6%にとどまり、半数に満たなかった。
- ・薬物乱用問題を見聞きした機会として、学校の授業や薬物乱用防止教室、街中の看板・ポスターなどを挙げる方が比較的多く、行政や関係団体による普及啓発活動は一定の効果がかがえた。一方で、インターネット広告を回答した方は少なく、この方法による啓発には工夫が必要と考えられる。
- ・効果的な薬物乱用防止啓発方法に関して、374件の意見や要望等があった。
- ・今回のアンケート結果や寄せられた意見を踏まえ、今後とも多くの方に大麻やオーバードーズを含め薬物乱用問題への理解を深めていただくとともに、これら薬物の乱用防止に資するよう、効果的な普及啓発活動に取り組んでいく。

○ オーバードーズとは

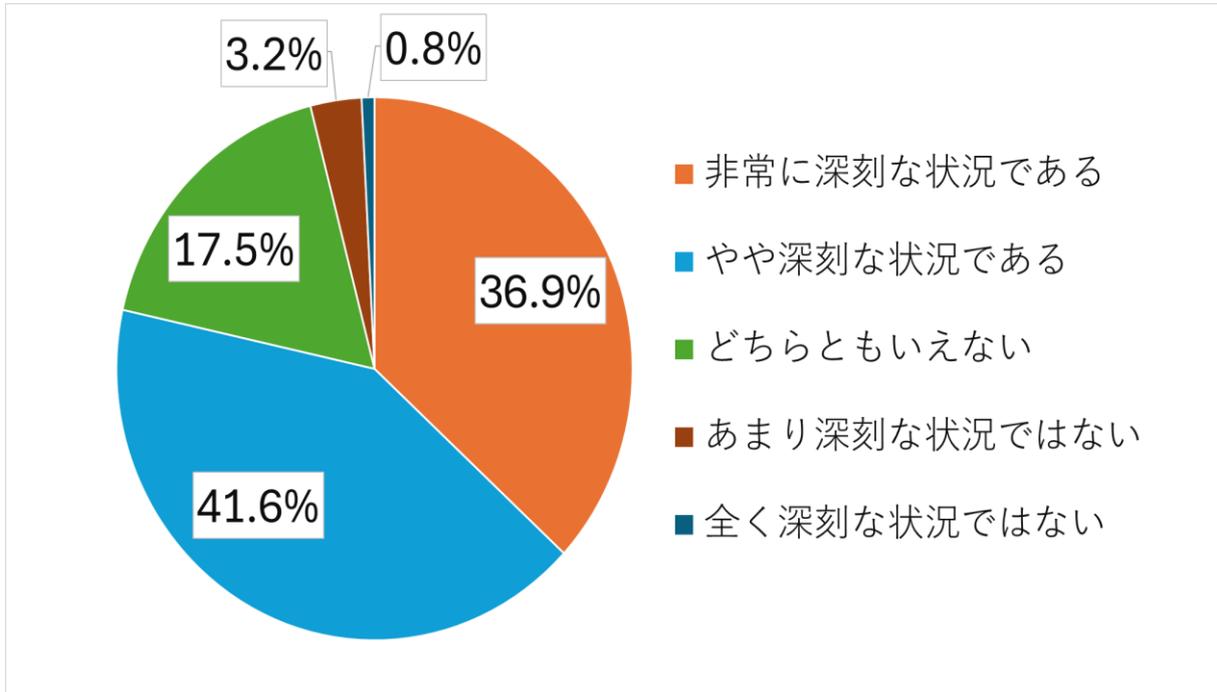
医薬品（市販薬を含む）を決められた量を超えてたくさん飲んでしまうこと

【問1】（薬物乱用の状況に関する意識）

あなたは、日本国内における最近の薬物乱用の状況についてどのように感じますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,125)



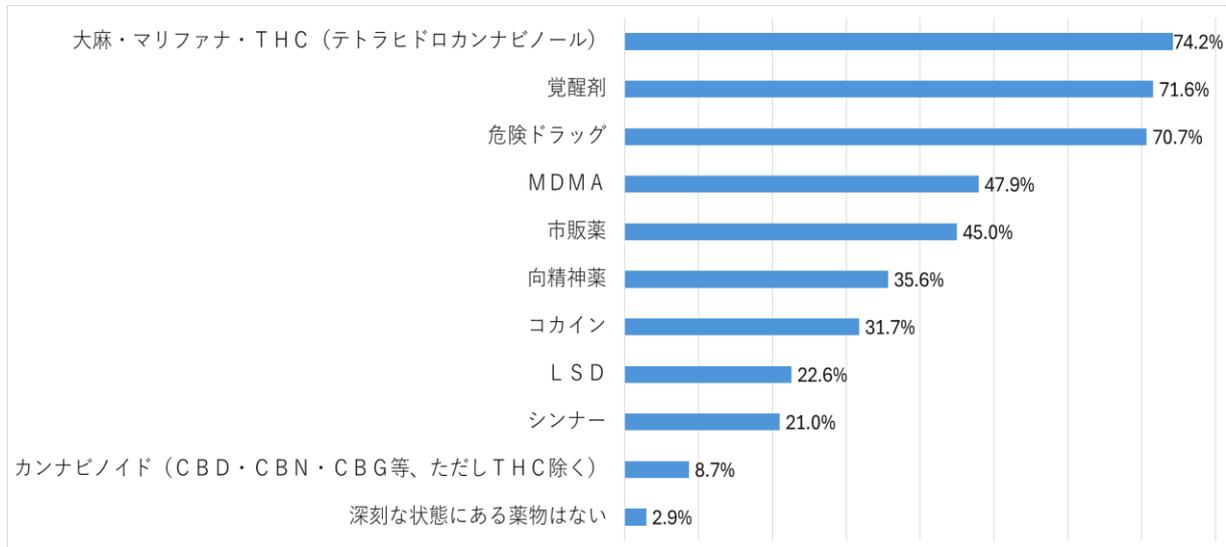
- 日本国内における最近の薬物乱用の状況について、「非常に深刻な状況である」(36.9%)、「やや深刻な状況である」(41.6%)を合わせた【深刻な状況である】と回答した割合は78.5%であった。
- 一方、「全く深刻な状況でない」(0.8%)、「あまり深刻な状況でない」(3.2%)を合わせた【深刻な状況にない】と回答した割合は4.0%であった。

【問2】（深刻な状況にある薬物等について）

あなたが知っている薬物等の中で、現在、日本国内で深刻な状態にあると思う薬物等は何ですか。

次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,125)



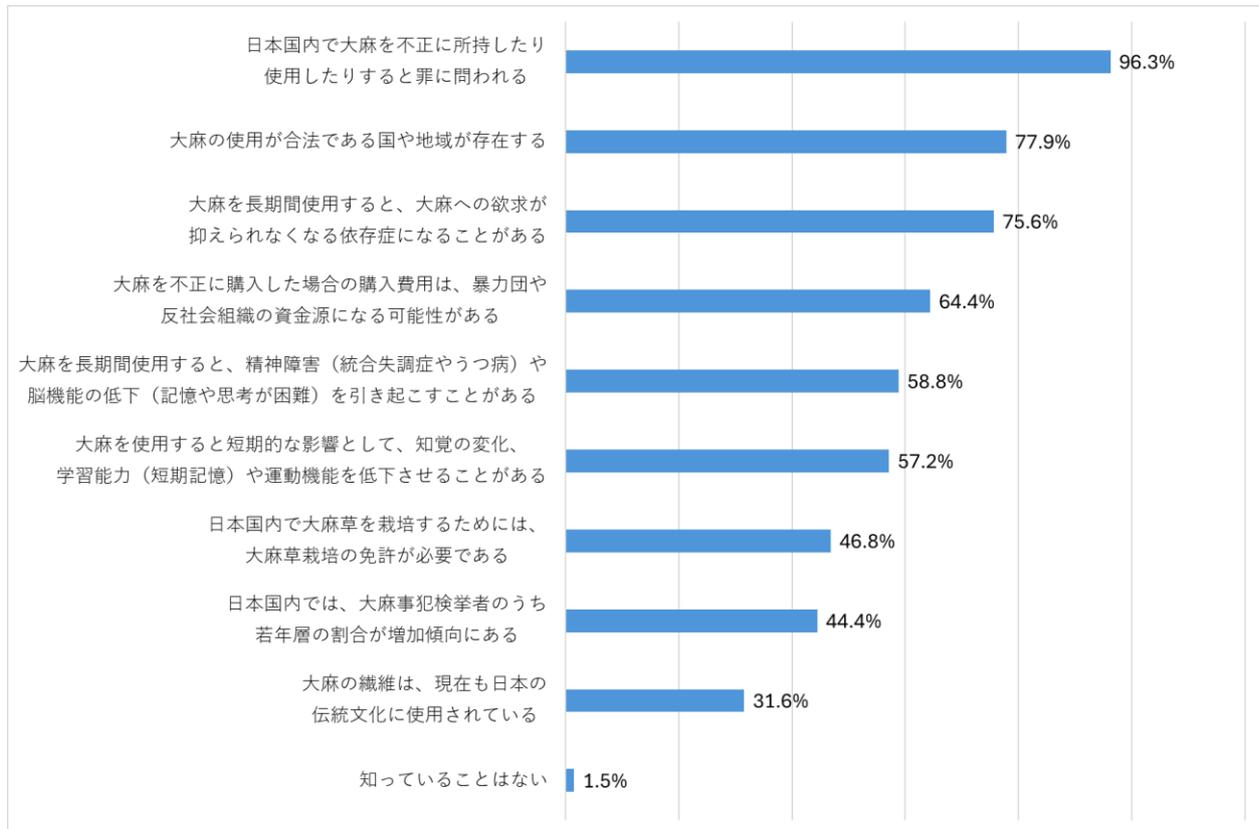
- 日本国内で深刻な状態にあると思う薬物等については、「大麻・マリファナ・THC(テトラヒドロカンナビノール)」(74.2%) が最も高く、「覚醒剤」(71.6%)、「危険ドラッグ」(70.7%) と続き、全て7割超であった。
- 次いで、「MDMA」(47.9%)、オーバードーズの原因となる「市販薬」(45.0%) 及び「向精神薬」(35.6%)、「コカイン」(31.7%)、「LSD」(22.6%)、「シンナー」(21.0%) であった。
- 「カンナビノイド (THC 除く)」が日本国内で深刻な状態にあると思うと回答した割合は、8.7%であった。

【問3】（大麻に関する認知度）

あなたが、大麻について知っていることは何ですか。

次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,125)

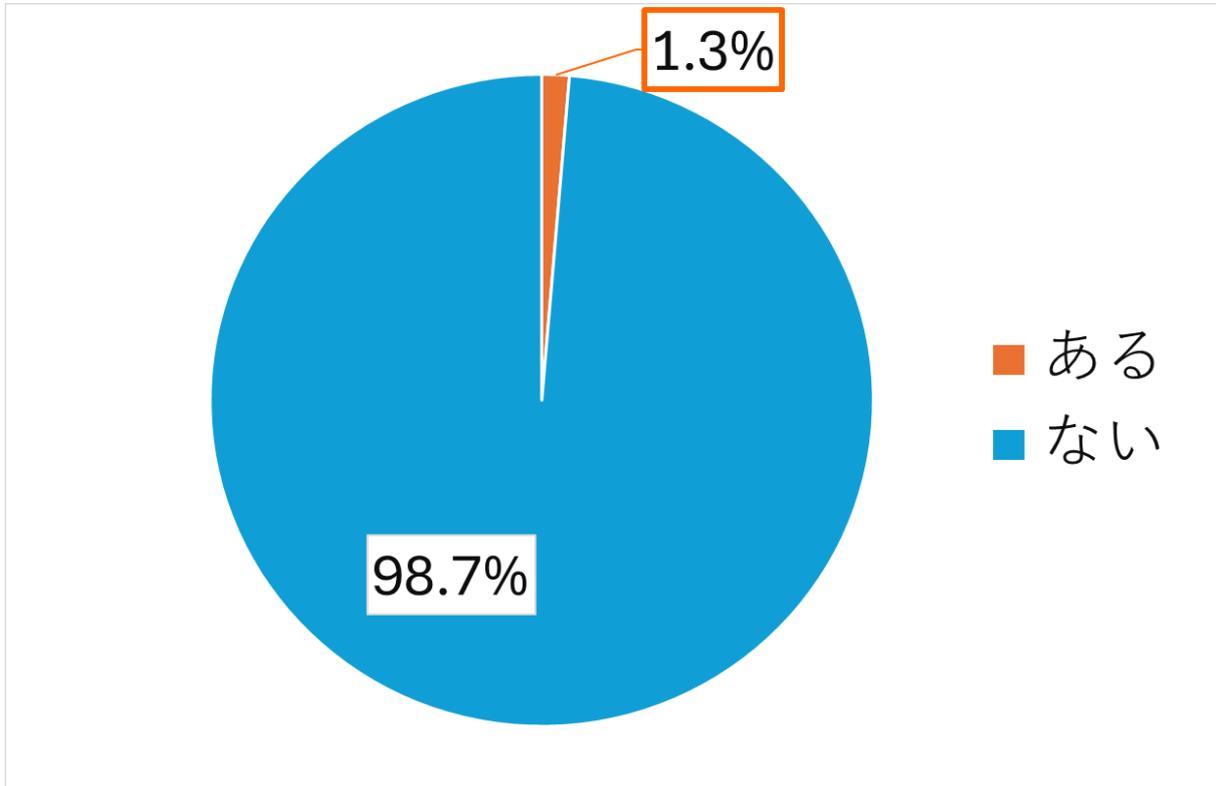


- 大麻について知っていることでは、「日本国内で大麻を不正に所持したり使用したりすると罪に問われる」と回答した割合が 96.3%で最も高く、次いで、「大麻の使用が合法である国や地域が存在する」（77.9%）であった。
- 大麻の危険性に関しては、「大麻を長期間使用すると、大麻への欲求が抑えられなくなる依存症になることがある」（75.6%）、「大麻を不正に購入した場合の購入費用は、暴力団や反社会組織の資金源になる可能性がある」（64.4%）、「大麻を長期間使用すると、精神障害（統合失調症やうつ病）や脳機能の低下（記憶や思考が困難）を引き起こすことがある」（58.8%）、「大麻を使用すると短期的な影響として、知覚の変化、学習能力（短期記憶）や運動機能を低下させることがある」（57.2%）と回答した割合が半数以上であった。
- 「日本国内で大麻草を栽培するためには、大麻草栽培の免許が必要である」（46.8%）が続き、「日本国内では、大麻事犯検挙者のうち若年層の割合が増加傾向にある」と回答した割合は 44.4%で半数に満たなかった。
- 「大麻の繊維は、現在も日本の伝統文化に使用されている」と回答した割合は 31.6%であった。

【問4】(大麻に対する興味)

あなたは、最近、大麻を使ってみたいと思うことがありましたか。
次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,125)



○ 最近、大麻を使ってみたいと思うことがあったか、との質問に対し、「ある」と回答した割合は1.3%、「ない」と回答した割合は98.7%であった。

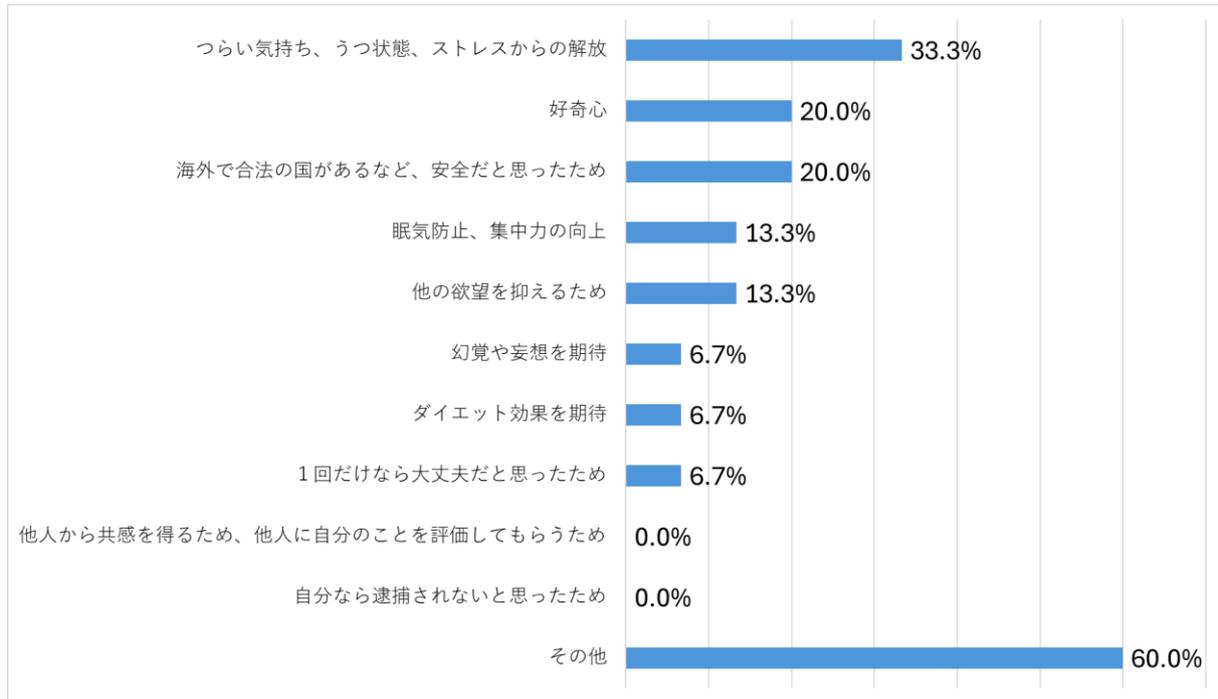
【問5】(大麻に対する興味の理由)

(問4で「ある」を選択した方へ)

あなたは、なぜ大麻を使ってみたいと思いましたか。

次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=15)



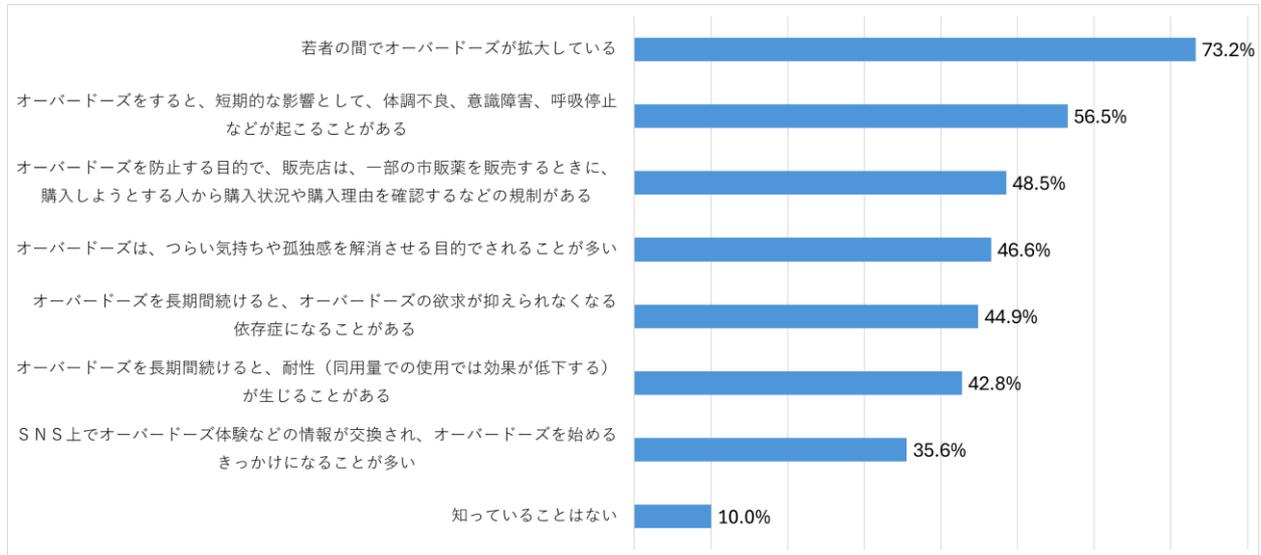
- 大麻を使ってみたいと回答した方の、使ってみたいと思った理由では、「つらい気持ち、うつ状態、ストレスからの解放」と回答した割合が33.3%で最も高く、次いで「好奇心」及び「海外で合法の国があるなど、安全だと思ったため」と回答した割合が20.0%と同率であった。
- さらに、「眠気防止、集中力の向上」、「他の欲望を抑えるため」との回答が13.3%、「幻覚や妄想を期待」、「ダイエット効果を期待」、「1回だけなら大丈夫だと思った」が6.7%とそれぞれ同率で続いた。
- 「その他」(60.0%)として、次のような意見が挙げられた。(計9件)
 - ・ 病気の治療、疼痛緩和のため (計3件)
 - ・ 大麻をどうして人が使用するのか知りたいと思ったため
 - ・ どんな感じになるのか体験してみたい
 - ・ 使用はあくまで麻薬としてではなく、繊維利用や古来の使用法を知りたいと思ったから
 - ・ 大麻は悪いものではなく良いと表現している文章を読んだため
 - ・ 医療用麻薬より大麻の方が副作用が軽い
 - ・ 海外育ちで経験があるから (日本にきてからは大麻を一切していない)

【問6】（オーバードーズに関する認知度）

あなたが、オーバードーズについて知っていることは何ですか。

次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,125)



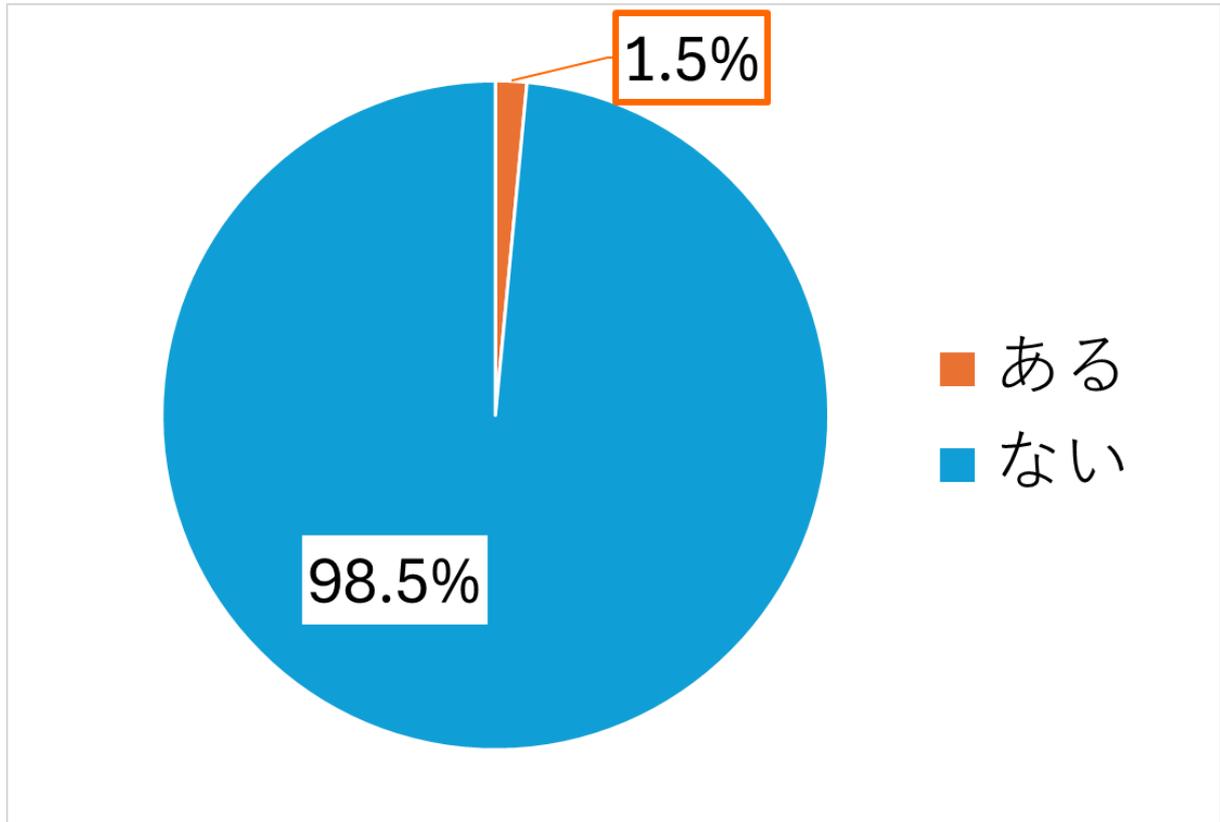
- オーバードーズについて知っていることでは、「若者の間でオーバードーズが拡大している」と回答した割合が73.2%に上った。
- 「オーバードーズをすると、短期的な影響として、体調不良、意識障害、呼吸停止などが起こることがある」(56.5%)、「オーバードーズを防止する目的で、販売店は、一部の市販薬を販売するときに、購入しようとする人から購入状況や購入理由を確認するなどの規制がある」(48.5%)、「オーバードーズは、つらい気持ちや孤独感を解消させる目的でされることが多い」(46.6%)、「オーバードーズを長期間続けると、オーバードーズの欲求が抑えられなくなる依存症になることがある」(44.9%)、「オーバードーズを長期間続けると、耐性（同用量での使用では効果が低下する）が生じることがある」(42.8%)、「SNS上でオーバードーズ体験などの情報が交換され、オーバードーズを始めるきっかけになることが多い」(35.6%)と続いた。
- オーバードーズについて、「知っていることはない」と回答した割合は10.0%と低かった。

【問7】（オーバードーズに対する興味）

あなたは、最近、オーバードーズをしてみたいと思うことがありましたか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,125)



- 最近、オーバードーズをしてみたいと思うことがあったか、との質問に対し、「ある」と回答した割合は1.5%、「ない」と回答した割合は98.5%であった。

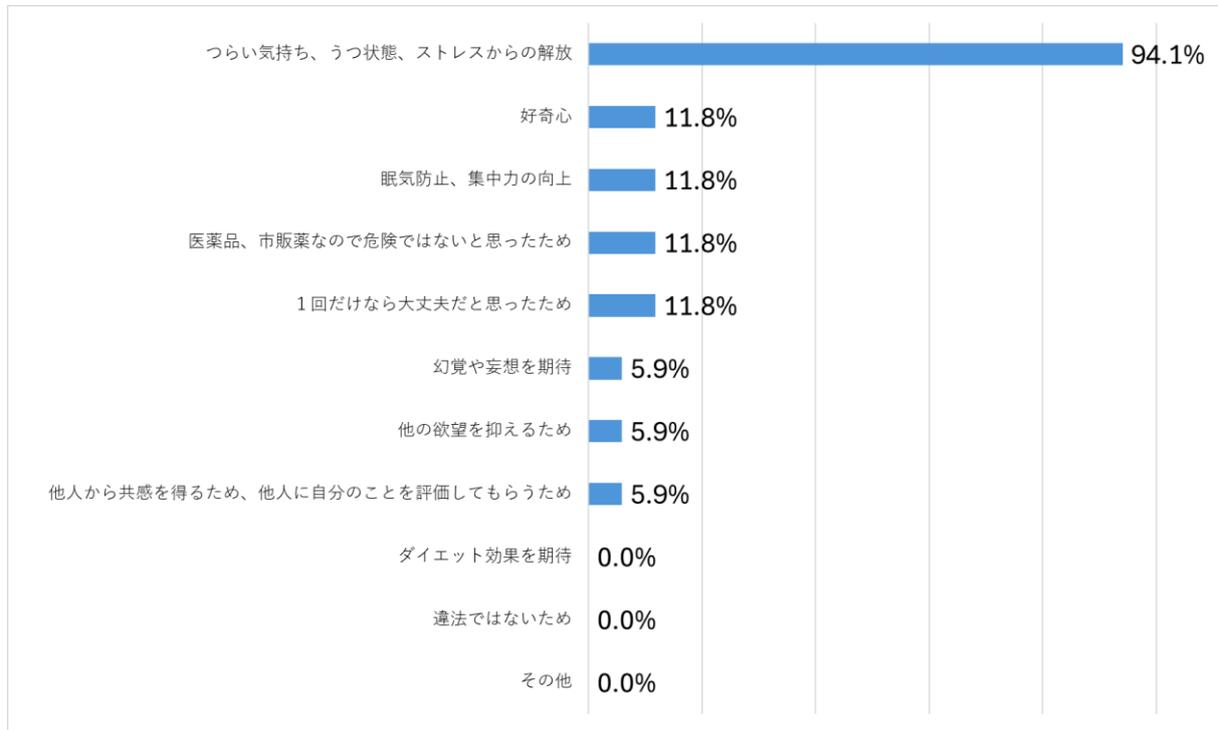
【問8】（オーバードーズに対する興味の理由）

（問7で「ある」を選択した方へ）

あなたは、なぜオーバードーズをしてみたいと思いましたか。

次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=17)



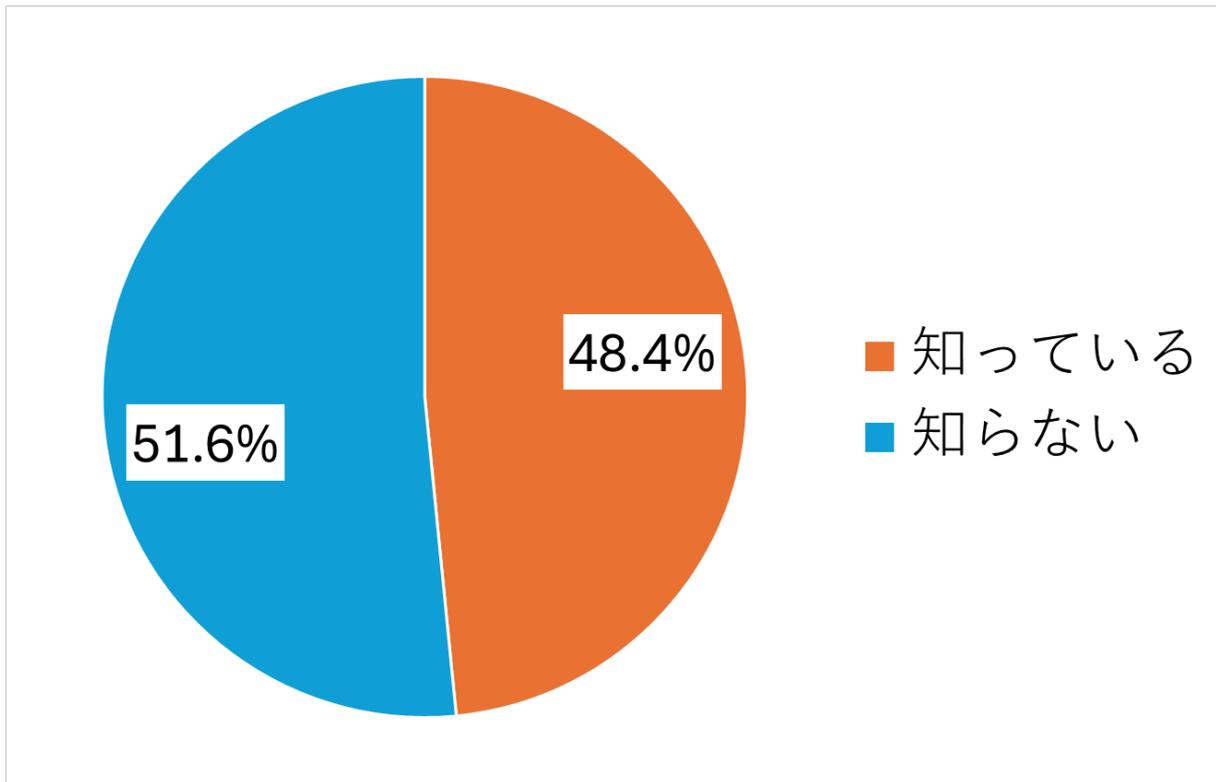
- オーバードーズをしてみたいと回答した方の、してみたいと思った理由では、「つらい気持ち、うつ状態、ストレスからの解放」と回答した割合は94.1%に上った。
- さらに、「好奇心」や「眠気防止、集中力の向上」、「医薬品、市販薬なので危険ではないと思ったため」、「1回だけなら大丈夫だと思ったため」と回答した割合はそれぞれ11.8%、「幻覚や妄想を期待」、「他の欲望を抑えるため」、「他人から共感を得るため、他人に自分のことを評価してもらうため」と回答した割合はそれぞれ5.9%であった。

【問9】（薬物依存に関する相談窓口）

あなたは、薬物依存で困っている人やその家族のために、電話相談やSNSの相談窓口が公的機関や民間で設置されていることを知っていますか。

次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,125)

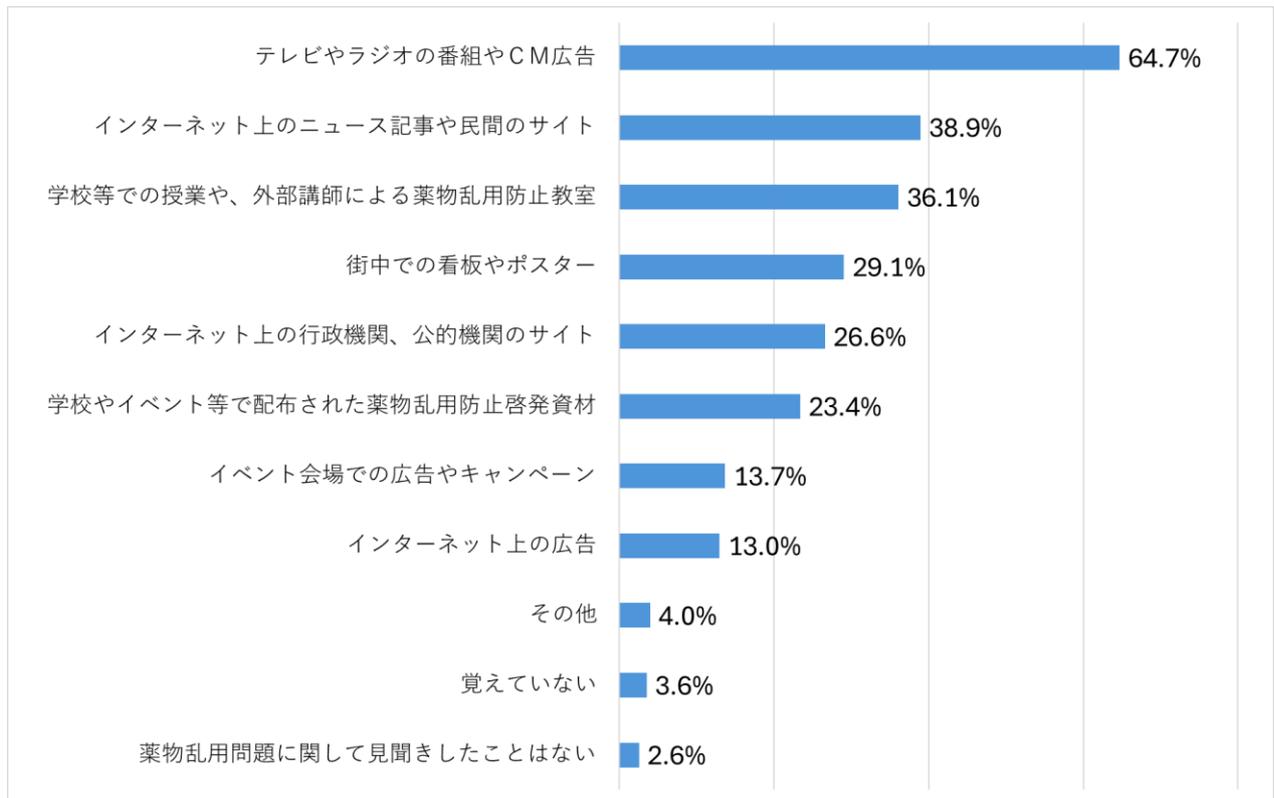


- 薬物依存で困っている方やその家族のために、電話相談やSNSの相談窓口が公的機関や民間で設置されていることを「知っている」と回答した割合は48.4%、「知らない」と回答した割合は51.6%でほぼ半数であった。

【問 10】（薬物乱用問題について見聞きした機会）

あなたは、薬物乱用問題に関してどのような機会に見聞きしたことがありますか。
次の中から、あてはまるものを全て選んでください。

(n=1,125)



- 薬物乱用問題について見聞きした機会について、「テレビやラジオの番組やCM広告」と回答した割合が64.7%で最も高かった。次いで「インターネット上のニュース記事や民間のサイト」(38.9%)であった。
- さらに、「学校等での授業や、外部講師による薬物乱用防止教室」(36.1%)、「街中での看板やポスター」(29.1%)、「インターネット上の行政機関、公的機関のサイト」(26.6%)、「学校やイベント等で配布された薬物乱用防止啓発資材」と従来から行政が啓発している方法が続いた。なお、「イベント会場での広告やキャンペーン」(13.7%)、「インターネット上の広告」(13.0%)、「覚えていない」(3.6%)と回答した割合は高くなかった。
- 「薬物乱用問題に関して見聞きしたことはない」と回答した割合は2.6%と低かったが、全くいないというわけではなかった。
- 「その他」(4.0%)として、次のような意見が挙げられた。(計45件)
 - ・動画サイトで口の中が真っ青でふらつく様子を見た
 - ・職業上、薬物中毒者と接する機会があった
 - ・ライオンズクラブに所属していたとき、薬物乱用防止活動をした
 - ・知人から薬物乱用問題の情報を聞いた
 - ・病院に入院した生徒がオーバードーズをしていたと聞いた
 - ・電車内で薬物乱用を見かけた
 - ・厚生労働省で意見交換会をしてきた
 - ・民生委員の同じグループから薬物乱用防止指導員になった人がいた
 - ・ドラッグストアで風邪薬を購入するとき説明を受けた

【問 11】（自由記述）

効果的な薬物乱用防止啓発について、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記載してください

- ・継続した若年層への教育が必要と考える
- ・どうなって、どういう処置を受けなきゃいけないのか知る必要がある
- ・孤独にしない・させないことが、最大の予防策だと考える。家庭のみならず、地域、行政、学校、警察、ソーシャルワーカー（社会福祉士）など関わる全ての人々が異変に気づくことを躊躇わずに出来るといい
- ・孤独を感じる人が結果的に何らかの依存に染まりやすいと考える。単にダメ、禁止を訴えるのではなく、その背景にある社会構造そのものから改善が必要
- ・社会においては誘惑、興味、自己否定感などから引き込まれることが多く、周囲が早くに異変をキャッチし、問題を根源的に解決することに関わらないと難しいであろう
- ・若者対象にするならば、新聞やテレビより SNS 上で防止啓発をした方が効果的だと思う
- ・違法薬物は発生元を徹底的に調べる事が必要
- ・幼少のころから危険な行為だということを理解しなければならないと思う
- ・SNS の普及がオーバードーズの危険性が分からぬまま広まってしまっていると思える。市報等でも取り上げてほしい
- ・薬物流通で利益を得ている暴力団の検挙に力をいれる
- ・薬物乱用の契機が SNS なら、そんな投稿を表示させない、投稿させないことが重要だと思う
- ・他国でも行われているように、子どもへの SNS の規制を取り入れたらいいと思う
- ・様々な場所、メディアを使用して、情報を知る機会を増やしてほしい
- ・オーバードーズに対しては、薬が簡単に買えないようにすることは出来ないのだろうか。テレビや新聞で見聞きする度、悲しい気持ちになる
- ・体験して立ち直った人にリアルな話をしてもらいたい
- ・年齢に配慮はすべきだが、実際に使用している人や経験者からの実話を映像で見せたほうがいいと思う。また、悩みを相談できる窓口を紹介することも併せてやったほうがいい
- ・薬物を横文字でオシャレな表現を用いることで、犯罪だと若者が思わなくなってしまうと思う
- ・テレビ等で活躍する芸能人等が薬物で捕まった後、社会復帰を果たしている事などが、薬物を身近に感じてしまったり、すぐに止める事ができるというような誤解を招いているのではないかと感じる。刑事処分のことや社会的影響を十分に教えなければならないと感じる
- ・寂しさを紛らわすのに使用するのが一番の理由だと思った。家族の力が重要だと思う
- ・孤立、孤独を生まない社会や「だめ！絶対！」「人間やめますか？」みたいな一度手を出したらコミュニティから弾き出されるような雰囲気防止策だけでなく、もっとあたたかい居場所づくりなどの政策も必要かと思う
- ・マイナンバーカードカードを活用し、過剰な薬を処方しないような仕組みにするべき
- ・薬物などの使用についての罰則が緩すぎると思う
- ・追い込まれていることに対する対応（小中学校の間に、少人数のクラスで、悩みやしんどさをケアできるようにするなど）をすることが必要だと思う。そうすることで、OD だけでなく、青少年の問題の多くは解消されると思う
- ・社会に出ても研修の機会を作っていただきたい

- ・薬物乱用防止が目的であれば情報提供や相談の窓口を紹介しても良いと思う
- ・とても深刻な問題だと思うが、世間にはあまり浸透されていないと感じる
- ・身近に薬物乱用で苦しんでいる人もいなく、防止の啓発といっても実感が無いというのが本音
- ・まだまだ、情報が広く細部まで伝わっていないと思う
- ・親元を離れて生活している孤独な気持ちにつけ込んでいるのではないかと、高校生、大学生への対策を強化して欲しい
- ・この頃、中学生高校生の薬物使用についてニュースが増えた。低年齢化の現状に驚くばかり。こんなことが増えてはいけないと思う
- ・興味本位で始める場合と、家庭環境等の根源的な問題が背景にある場合では、取るべき対応が異なるように思う。前者に対しては、薬物乱用による心身や将来への影響等を具体的に伝えることで抑止効果が期待できる。後者に対しては根本的な問題解決への支援が必要
- ・薬物使用は自分だけの問題ではないと理解する事が重要だと思う
- ・乱用防止啓発に対する本気度が伝わらない。短期、中期、長期でのプランは策定されているのか？どうせ数年で異動するからとその場凌ぎになっていないか？柔軟な発想で、多様な意見を取り入れて攻めた政策を期待する
- ・一生苦しむことになることを、子どもたちにも伝えていくことが必要。それでお金を稼いでいる人にも人間としての、正しい知識を与えてほしい
- ・小学生から授業に取り入れて欲しい。SNSでの知識よりも専門家の知識を教えていてもらいたいと思う
- ・相談窓口やアドバイスする窓口を増やす。SNS上で
- ・小学校高学年位から薬物乱用防止に関する知識を習得できるような対応をしていく必要があると思う
- ・中学校の時に学年全員で聞く薬物乱用防止の授業があり、衝撃的なビデオ（主人公の皮膚を虫が這う感覚があったり、最後は幻覚を見て高いところから飛び降りるような終わり方だったと記憶している）で、とても印象に残っている。それ以来、絶対に薬物を使いたくないと強く思っている。若い頃にこういう機会は必ず持つべきだと思う
- ・単発の講話よりスキル教育+リアル体験談+親子連携の継続プログラムが効果的
- ・ポスターだけでは自分事として捉えにくい。体験談や支援者のインタビューなども教育材料としてはどうか
- ・県や市の広報誌に年1回は取り上げる必要があるのではないかと。もし、興味のある方はその広報誌を残すことが出来るから
- ・講義だけでなくグループディスカッションなどで薬物乱用について自分事として考える機会があると良いと思う
- ・オーバードーズ薬に関しては全て購入するには保護者の許可が必要な状態にする必要がある。そのためにはマイナカードなどの活用が重要である
- ・愛情不足や居場所のない子供たちが薬物乱用に走るように思う。存在を認め居場所を作るようにすることが薬物乱用を減らす効果が高いと思う。特に学校での居場所はとても重要だと思う
- ・何かあった時に相談できる場所があることを知ってもらうことに力を入れた方が良いと思う
- ・薬物乱用により、家族や友人など大切な人との繋がりや信頼を失ってしまうことに気づかせるようなことをアピールするといいいのではないか
- ・漫画やアニメ、YouTuberやVtuberなどを活用するのも効果がありそうな気がする。若者達の目に留まるように媒体を工夫する必要がある

- ・学校での啓発のための学習会が必要だと思う
- ・「ダメ、ゼッタイ」は秀逸なキャッチコピーなので、これは使い続けつつ、薬物によるリアルな惨状をありのままに見せていくと良いと思います
- ・しんどい時や鬱のような状態の時に頼れる機関の周知をしてほしいし、命の電話もかけても繋がらなかったことがある。きちんと人件費にお金をかけて設備を整えてほしい

など 374 件の意見があった。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・日本国内における最近の薬物乱用の状況として、深刻な状況であると感じる方の割合が 78.5%、深刻でないと感じる方の割合がわずかに 4.0%となり、薬物乱用問題に対する社会的危機感の高まりが確認された。
- ・大麻、覚醒剤及び危険ドラッグについて、国内で深刻な状況にあると考えている方の割合は 7割を超えており、従来から乱用されやすい覚醒剤に加え、近年若者を中心に乱用が拡大している大麻や危険ドラッグの影響が大きいと推測される。また、市販薬や向精神薬は本来、安全に使用されることを前提とした医薬品である。しかし現状では、若者を中心に広がっているオーバードーズの原因物質となっており、問題が深刻化している。そのため、これらについて深刻な状況にあると認識している方の割合は 45.0%に上ったと考えられる。
- ・大麻に関しては、国内で所持・使用すると罪に問われると回答した方の割合は 96.3%、依存性があると回答した方の割合が 75.6%など、これまでの啓発で一定の効果が表れているが、大麻の違法性、危険性が十分に周知されているとはいえないため、これからも啓発を続けていくことが重要である。
- ・オーバードーズについて「知っていることはない」と回答した方は 10.0%であり、大部分の方に認知されていた。一方で、つらい気持ちや孤独感を解消する目的で行われることが多いと認識している方は 46.6%にとどまり、半数に満たなかった。また、意識障害や依存症、薬が効きにくくなるといった耐性など健康への悪影響を知っている方の割合も 5割前後であった。より多くの方に正しい知識を普及させるため、今後も啓発を推進していくことが必要である。
- ・薬物依存に悩む方やその家族等のために、電話相談や SNS で相談できる窓口が公的機関や民間に設けられているが、その存在を知っている方は約半数にとどまっていたため、さらに周知していく必要があると認識した。
- ・薬物乱用問題について見聞きした機会については、テレビ・ラジオ、インターネット、学校の授業や薬物乱用防止教室、街中の看板やポスターなどが多く挙げられた。インターネット上の行政機関のサイトや、薬物乱用防止啓発資材も見聞きした機会があるとの回答も寄せられ、マスメディアから発信される情報だけでなく、行政や関係団体による普及啓発活動も一定の効果があると考えられた。一方で、イベント会場での広告やキャンペーンが低い結果となった。これは、そもそも街頭キャンペーン等自体に触れる機会があまり多くないためと考えられる。さらに、インターネット上の広告を回答した方は少なく、今後インターネット広告で啓発を行う

際には工夫が必要と考えられる。

- ・自由記述では、様々な立場の方から、薬物乱用防止に効果的な啓発方法について多くの意見や要望が寄せられた。特に、若者の薬物乱用対策には、啓発活動だけでなく、孤独への対策も重要であるとの意見が多く見られた。
- ・今回のアンケート結果や寄せられた意見を踏まえ、今後とも多くの方に大麻やオーバードーズを含め薬物乱用問題への理解を深めていただくとともに、これら薬物の乱用防止に資するよう、行政内の各機関や民間団体に加え、薬物問題で悩んでいる方、過去に悩んだ経験のある方やその関係者等の意見も取り入れながら、効果的な普及啓発活動に取り組んでいく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：2025年11月18日～2025年12月1日

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,665名

回収率：67.6%（回収数1,125名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（%）
全体（n）		1,125	100.0
地域別	県北	91	8.1
	県央	358	31.8
	鹿行	63	5.6
	県南	353	31.4
	県西	79	7.0
	県外	181	16.1
性別	男性	486	43.2
	女性	639	56.8
年齢別	16～19歳	7	0.6
	20～29歳	49	4.4
	30～39歳	144	12.8
	40～49歳	279	24.8
	50～59歳	306	27.2
	60～69歳	218	19.4
	70歳以上	122	10.8
職業別	自営業	76	6.8
	会社員	436	38.8
	団体職員	49	4.4
	公務員	59	5.2
	主婦・主夫	229	20.4
	学生	21	1.9
	無職	135	12.0
	その他	120	10.7

(2) 担当課

茨城県保健医療部医療局薬務課（麻薬グループ）

電話：029-301-3388

E-mail：yakumu1@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。